

家計調査の結果を見る際のポイント No.1

家計簿への記帳と月末の曜日

1 賞与の支給日

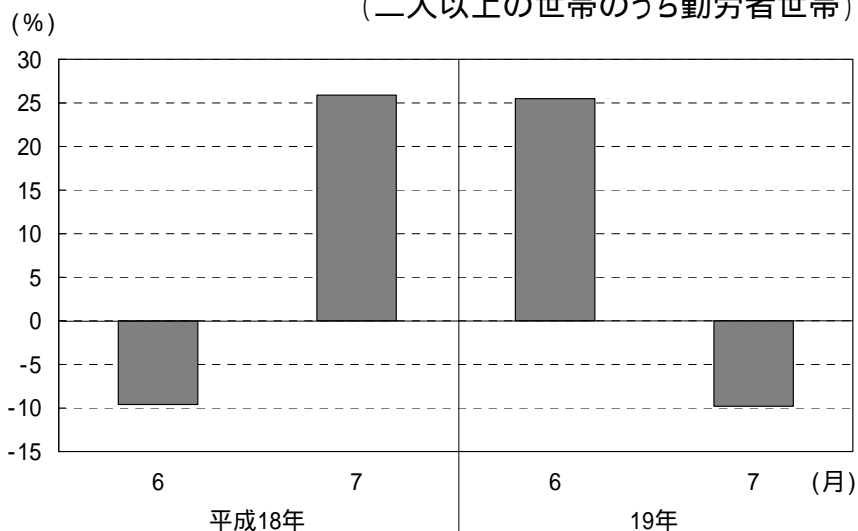
二人以上の世帯のうち勤労者世帯の実収入をみると、平成19年6月の対前年同月比は名目7.4%、実質7.6%の増加であったのに対して、7月は名目3.4%、実質3.3%の減少となっています。実収入の内訳をみると、世帯主収入の中の賞与の伸びが大きく寄与しています。これは、次のようなカレンダーによる要因が主因と考えられます。

平成18年の6月30日(月末)は金曜日であったことから、同日に支給された賞与が7月1日に家計簿に記帳されたケースが多かったこともあり、18年6月の賞与は実質9.6%の減少、7月は実質25.9%の増加となりました。

一方、平成19年の6月30日は土曜日で、29日に支給された賞与が翌日に家計簿に記帳され、6月分として集計されたケースが多かったこともあり、19年の6月の賞与は実質25.5%の増加、7月は9.8%の減少となっています(図1)。

ちなみに、6月と7月を合わせてみると、平成19年は前年同期に比べて実質9.4%の増加となっています。19年は景気拡大を反映して、前年に比べて支給額も増えているとみられるほか、賞与の支払が前倒しされ6月に支給された世帯の割合も上昇しているとみられます。

図1 賞与の対前年同月実質増減率の推移
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



2 携帯電話通信料の口座振替日

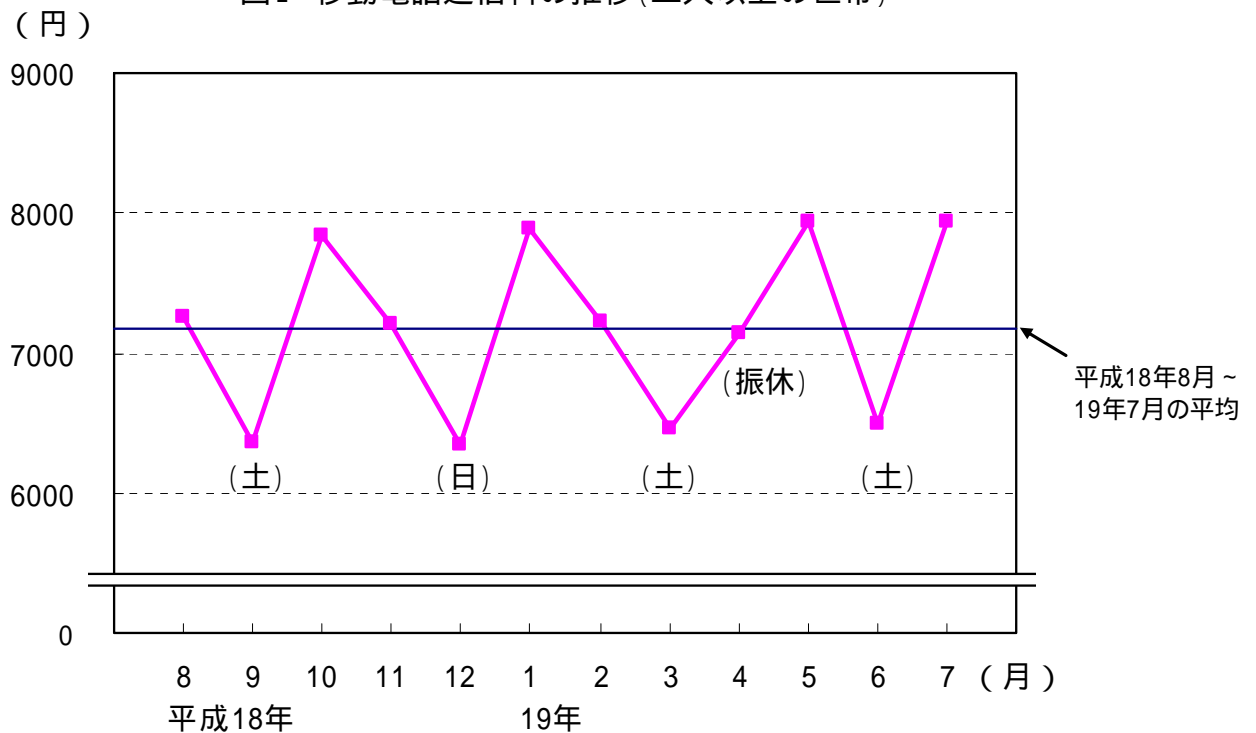
平成19年6月の二人以上の世帯の交通・通信は、対前年同月比で実質減少となりました。交通・通信の内訳をみると、減少に大きく寄与したものの一つに、携帯電話通信料があります。これも、次のようなカレンダーの要因によるものです。

大手携帯電話会社のうちの一社は、料金の支払期限(口座振替日)を月末に設定していますが、月末が土曜日、日曜日又は祝日に当たる場合は、翌営業日に口座から引き落とされます。

平成19年の6月は、月末が土曜日であったために、この会社の携帯電話を使用している世帯での口座振替日が翌々日の7月にずれ込んだ影響もあり、携帯電話通信料への平均支出額が減少したとみられます。

携帯電話通信料の推移をみると、月末が土曜日、日曜日又は祝日であった月は、支出が少なくなっていることが分かります(図2)。

図2 携帯電話通信料の推移(二人以上の世帯)



(注) 括弧内は月末の曜日を表す。ただし、「振休」は祝日の振替休日を表している。

(平成19年9月7日 作成)